

田原市民の読書と図書館への期待  
- 子育て世代へのアンケート調査から -

梶山女学園大学文化情報学部司書課程研究室

平成 24 年 3 月

## 目次

第1章 はじめに .....	2
第2章 調査の方法 .....	4
第3章 調査の結果 .....	6
第1節 情報源として何を重視しているか .....	6
第2節 必要な情報をどこから入手するか .....	8
1．インターネットの利用場所 .....	8
2．本の入手先 .....	8
3．雑誌の入手先 .....	12
4．新聞の入手先 .....	14
5．ビデオ・DVD・CDの入手先 .....	14
第3節 読書量はどのくらいか .....	15
1．本を読まない人 .....	15
2．本を読む人の読書量 .....	16
第4節 図書館の利用はどれくらいか .....	23
1．年間利用回数 .....	23
2．おもに利用する図書館 .....	26
3．図書館を利用する理由 .....	28
4．図書館を利用しない理由 .....	29
5．図書館サービスについて知っているか .....	31
6．図書館に望むこと .....	32
第4章 調査結果のまとめ .....	34
< 調査票 > .....	35

## 第1章 はじめに

田原市は愛知県の南端に位置し、面積 189 平方キロメートル・人口 6 万 6 千人の地方都市である。人口でいえば県内で第 27 位の中間的な市であるが、面積が非常に広い(第 7 位)ために、人口密度では県内で 6 番目に低い市となっている。渥美半島のほぼ全体が市域にあたるため、陸地では接する自治体は豊橋市だけである。市内には、農業・工業・観光などの産業が特に発達していて、半島部という特色を生かした水産業・商業も発達し、バランスのとれた産業構造を形成している。

読書環境という面でいえば、市内には書店が 5 店ある。5 店という数は、近隣の豊橋市(25 店)・豊川市(20 店)・蒲郡市(7 店)・新城市(5 店)と比較して、多いとはいえない。すなわち、書店による読書環境は必ずしも恵まれているとはいえない。しかし、田原市内には 3 つの図書館(中央図書館・赤羽根図書館・渥美図書館)と 2 つの移動図書館(いずみ号・やしの実号)、さらには 20 の学校図書館がある。図書館の事業年報(平成 22 年度)によると、市立図書館の蔵書は全体で 45 万冊であり、そこから年間に 94 万冊の資料が借り出されている。表 1 をみるとわかるように、市立図書館によるこのサービスは、近隣の 4 市と比較して高い水準にあるといえる。すなわち図書館という読書環境については、田原市民は恵まれているといえる。市立図書館の位置および地域別利用状況は、図 1 と図 2 に記載してある。

このような田原市において、市民の読書の実態を明らかにするために、市民アンケート調査を実施した。調査方法としては、保育園・幼稚園・小学校・中学校を通じて、その保護者世帯へ調査票を配布するというものである。調査の主要な目的は 5 点である。

田原市民は必要な情報をどこから入手しているのか

田原市民はどの程度の読書量があるのか

市民の読書のうちで、図書館はどの程度を受け持っているのか

それらは他の都市と比較してどうなのか

これから図書館のすべきことは何か

以下、第 2 章で調査方法を解説し、第 3 章で調査結果の概略を報告し、第 4 章で全体のまとめを述べる。

表 1 田原市民の読書環境 (近隣市との比較)

	田原市	豊橋市	豊川市	蒲郡市	新城市
人口(万人)	6.6	36.5	18.0	8.2	5.1
書店数(店)	5	25	20	7	5
図書館数(館)	3	2	3	1	1
図書館蔵書(万冊)	40	93	49	27	14
図書館貸出数(万冊)	93	145	105	46	18

(『タウンページ愛知県豊橋版』および『日本の図書館 2010』による)

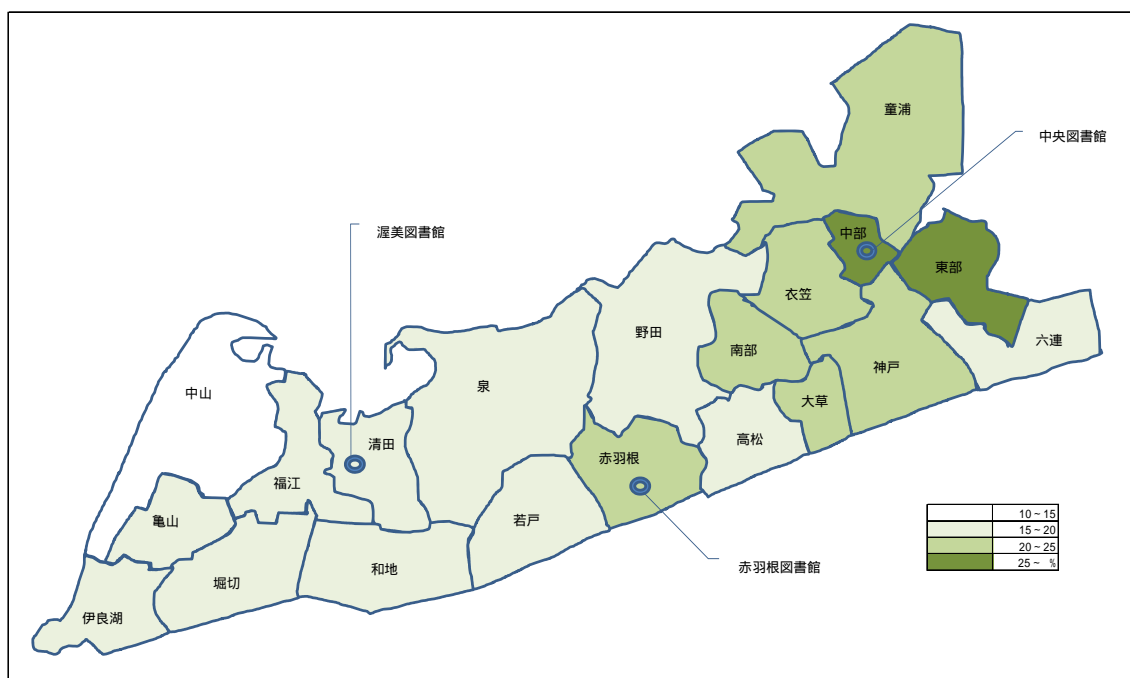


図 1 市立図書館の位置と、実質登録率（1年に1回以上借りた人の割合）（%）

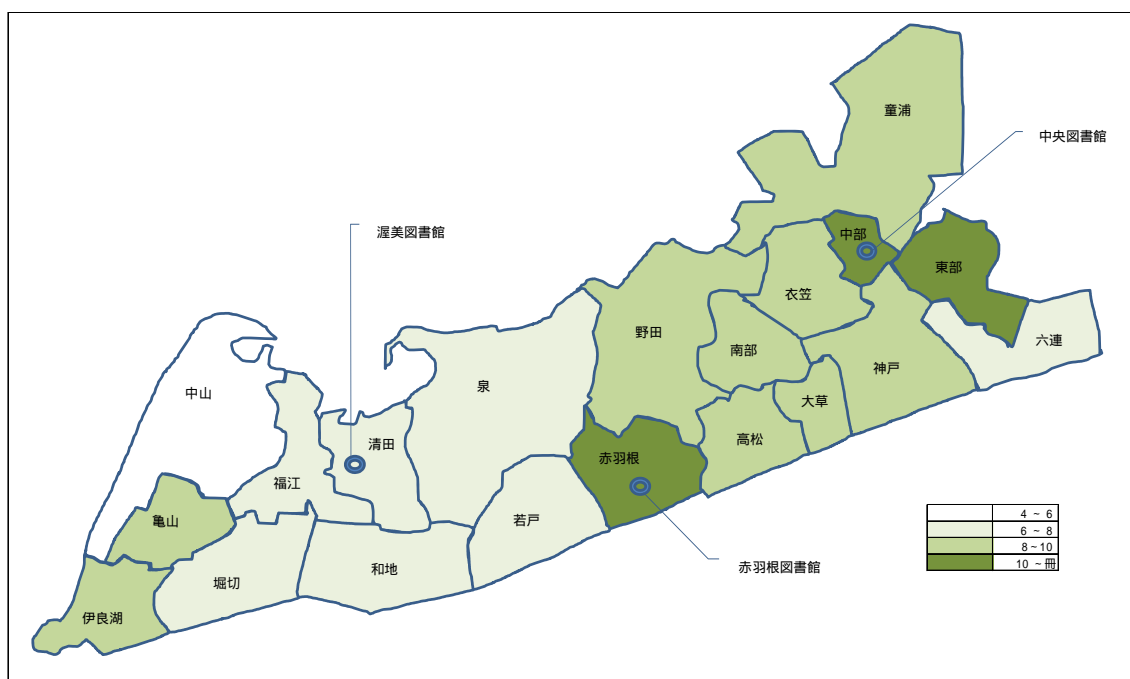


図 2 市立図書館からの年間貸出数（1人あたり）（冊）

## 第2章 調査の方法

アンケート調査の対象は、田原市内で子育て中の男女全員である。市内のすべての保育園・幼稚園・小学校・中学校を通じて、保護者へ調査票を配布した。保育園・幼稚園・小学校・中学校の保護者世帯は延べ6,080世帯なので、1世帯につき2名の保護者を想定して、計12,160枚の調査票を配布した。小学生1人と中学生1人のように複数の子どもがいる世帯には、調査票を重複して配布した。重複配布された調査票の場合には、2度目以降の調査票の「回答済み」欄にチェックを入れて、内容を記入せずに返送していただいた。調査票の見本は、本報告書の末尾に添付してある。

回収率は表2のとおりである。見かけ上の回収率が76.4%とやや低いのは、保護者が1名の世帯のあることや、保護者が2名いても1名(とくに女性のみ)しか回答しない世帯のあることや、2度目以降の調査票の「回答済」欄にチェックを入れずに白紙のまま返送した人のあることなどが理由として考えられる。

結果として、実際に回答していただいたのは6,375人の方であった。これは田原市の15歳以上人口56,840人の11.2%にあたる。回答者の年齢と男女の比率は、表3・図3・図4のとおりである。保護者あてのアンケートなので当然ではあるが、30歳代・40歳代の女性の割合が高い。また、表4・表5をみると、子どもの数が2人という回答者が多い。本報告書は、こうした特性を持った対象者からの回答をもとに、田原市民全体のようなすを推測しようとするものである。

表2 調査票の配布数と回答者数 (人)

	配布数 (世帯数×2)	回収数 (「回答済」含む)	回収率 (%)	実質回答者数
保育園(21園)	2,750	2,099	76.3	1,442
幼稚園(2園)	586	416	71.0	274
小学校(20校)	5,290	4,288	81.1	3,081
中学校(7校)	3,534	2,482	70.2	1,578
計	12,160	9,285	76.4	6,375

表3 男女別・年齢層別の回答者数 (人)

	10代	20代	30代	40代	50代～	無回答	計
女性	18	275	2,045	1,547	158	4	4,047
男性	21	64	873	1,101	262	4	2,325
無回答	0	2	0	1	0	0	3
計	39	341	2,918	2,649	420	8	6,375

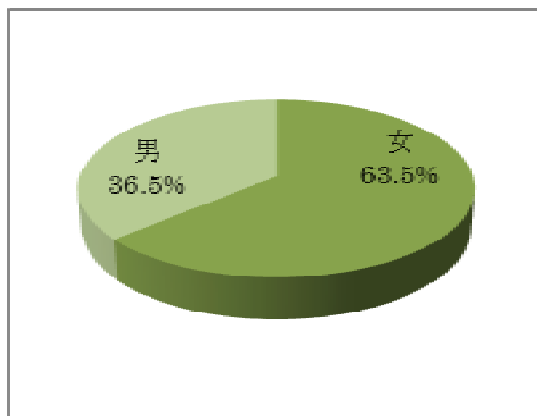


図 3 回答者の男女比 (%)

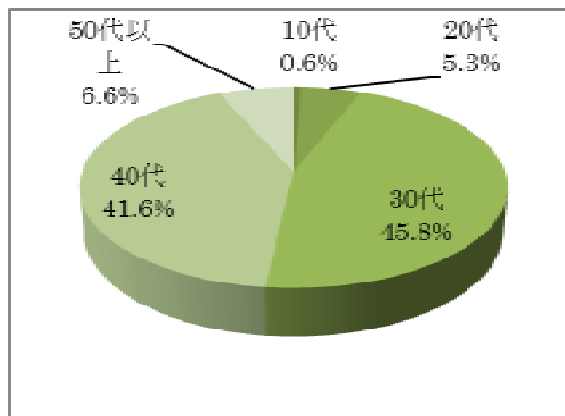


図 4 回答者の年齢層比 (%)

表 4 子どもの数別の回答者数 (人・%)

	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人以上	無効・ 無回答	計
人	893	3,288	1,802	290	19	83	6,375
(%)	14.0	51.6	28.3	4.5	0.3	1.3	100

表 5 小学校区別の回答者数 (人)

校区名	六連	神戸	大草	田原東部	田原南部	童浦	田原中部
(人)	186	763	147	503	131	677	633

野田	衣笠	高松	赤羽根	若戸	泉	清田	福江
313	494	153	253	170	365	215	437

中山	亀山	伊良湖	堀切	和地	豊橋市	無回答	計
417	136	62	164	106	37	13	6,375

### 第3章 調査の結果

#### 第1節 情報源として何を重視しているか

田原市民にとって、生活のなかの各場面において役に立つと思う情報源は何かを、表6左欄に記載した12項目から選んでいただいた。「仕事のための情報や知識を得るとき」など5つの場面において、1～12の各項目が「1番目に役に立つ」ものと回答した人の割合を示したのが表6である。

表6をみると、各場面における上位項目として「パソコン・インターネット」「知人・友人・家族」「テレビ」「新聞」などがあがっている。紙媒体である「本」「雑誌」「新聞」については、1番目にあげる人は多くはないものの、一定の需要があることもわかる。

表6 各場面で1番目に役に立つ情報源 (%)

	仕事のための情報や知識を得るとき	日常生活に必要な実用知識を得るとき	趣味娯楽や余暇の時間を過ごすとき	世の中の出来事を知るとき	子育てのための情報や知識を得るとき
1 新聞	15.9	14.2	1.1	28.7	3.4
2 雑誌	2.6	4.6	8.3	0.3	8.7
3 本	11.0	5.9	7.5	0.1	9.9
4 テレビ	8.1	26.8	23.3	54.5	8.6
5 ラジオ	0.8	1.3	0.5	1.8	0.4
6 CD・テープ	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0
7 映画・ビデオ・DVD	0.1	0.1	12.5	0.1	0.1
8 携帯電話	1.9	2.1	2.9	1.3	0.7
9 パソコン・インターネット	29.4	21.9	16.5	8.7	12.4
10 友人・知人・家族	18.5	17.2	18.9	1.0	50.2
11 チラシ・フリーペーパー	3.5	1.9	0.7	0.1	0.5
12 その他	3.6	0.2	3.0	0.1	0.9
無効・無回答	4.5	3.7	3.5	3.4	4.2
計	100	100	100	100	100

比較のために、子育て中の名古屋市的女性に対して実施した調査(2010年)の結果を、表7に掲載した。名古屋市内の保育所に子どもを預けて仕事をしている女性を調査対象としたもので、533人からの回答による結果である。女性だけのグループであること、保育所に限定しているので保護者の年齢がやや若いこと、専業主婦は含まないことなど、今回の田原

市調査とは回答者層が若干異なっていることに注意しておく必要がある。<sup>1</sup>

田原市調査と比較すると、名古屋市調査の方が、各場面において「パソコン・インターネット」の占める比重が高くなっている。とくに「仕事のための情報や知識を得るとき」「子育てのための情報や知識を得るとき」で高い。そのような場面においては、田原市民の多くは、「知人・友人・家族」からの知識が1番役に立つと考えている。また各場面において、名古屋市調査の方が「本」を重視する傾向にある。図表には数値を示していないが、このような傾向は、田原市調査の回答者を女性(4,047人)に限定して比較した場合でもみられる。

表 7 各場面で1番目に役に立つ情報源 (%) 名古屋市(女性)

	仕事のための情報や知識を得るとき	日常生活に必要な実用知識を得るとき	趣味娯楽や余暇の時間を過ごすとき	世の中の出来事を知るとき	子育てのための情報や知識を得るとき
1 新聞	14.9	17.1	1.6	33.7	2.7
2 雑誌	5.0	3.9	5.4	0.0	8.9
3 本	15.3	6.6	10.5	0.6	10.1
4 テレビ	5.4	20.9	16.3	51.0	3.7
5 ラジオ	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0
6 CD・テープ	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0
7 映画・ビデオ・DVD	0.0	0.0	9.9	0.0	0.0
8 携帯電話	1.4	2.1	4.1	1.0	1.7
9 パソコン・インターネット	42.4	28.1	16.9	10.9	21.7
10 友人・知人・家族	8.7	19.6	29.3	0.8	48.6
11 チラシ・フリーペーパー	-	-	-	-	-
12 その他	4.1	0.0	1.9	0.0	0.6
無効・無回答	2.7	1.7	1.7	1.9	1.9
計	100	100	100	100	100

<sup>1</sup> 山本昭和・福永智子「子育て世代の読書と図書館への期待：保育所の保護者へのアンケート調査から」『中部図書館情報学会誌』51, 2011, p13-26.



## 第2節 必要な情報をどこから入手するか

### 1. インターネットの利用場所

役に立つ情報源として各場面で上位にあがっていた「インターネット」について、情報の入手先(インターネットの利用場所)について尋ねた結果が表8である。田原市調査では「自宅」という回答が67.2%と最も多い。名古屋市調査と比較すると、「自宅」が多いのは共通だが、田原市には「利用しない」との回答が多いのが特徴である。田原市の女性からの回答で「職場・学校」が少ないのは、名古屋市調査と違って自営業層や専業主婦層が調査対象に多く含まれているためと思われる。

表 8 インターネットの利用場所 (%)

		自宅	職場・ 学校	図書館	携帯	その他	利用 しない	無回 答・無効	計
田原市	(全)	67.2	4.7	0.8	10.9	0.5	11.9	4.0	100
	(女性)	67.0	2.9	1.0	12.2	0.5	12.7	3.7	100
	(男性)	67.7	7.9	0.4	8.8	0.4	10.5	4.5	100
名古屋市	(女性)	69.6	8.5	0.0	11.0	1.2	5.4	4.3	100

### 2. 本の入手先

各場面において、本が1番目に役に立つと考えている人は必ずしも多くはない。しかし田原市民は当然ながら、たくさんの本を読んでいる。本の入手先について尋ねた結果が、表9と図5である。「書店などお店で買う」が49.2%と最も多く、次いで「図書館で借りる・読む」の23.3%となっている。男女で比較すると、「図書館で借りる・読む」で女性が多く、「本は読まない」で男性が多い。

名古屋市調査と比較すると、田原市の女性は「図書館で借りる・読む」が多く、「友人・知人・家族から借りる」が少ない傾向にある。表9の名古屋市調査の下段に、日本図書館協会が2004年に実施した栗東市(滋賀県)・熊取町(大阪府)・伊万里市(佐賀県)での調査の結果を記載しておいた。3市と比較すると田原市では、「図書館で借りる・読む」が少なく、その分「本は読まない」が多くなっている。3市とも図書館先進都市として知られる自治体であり、また調査対象も市民全体(抽出調査)であることに注意しながら、参考にしていきたい。<sup>2</sup>

<sup>2</sup> 日本図書館協会『「図書館における自己点検・評価等のあり方に関する調査研究」報告書』日本図書館協会, 2004, 146p.

表 9 本の入手先 (%)

		書店など お店で買 う	友人知人 家族から 借りる	図書館で 借りる・ 読む	その他	本は読ま ない	無回答・ 無効	計
田原市	(全)	49.2	2.8	23.3	1.5	19.0	4.2	100
	(女性)	47.1	3.1	28.6	1.2	15.6	4.3	100
	(男性)	52.8	2.2	14.1	2.1	24.9	3.9	100
名古屋市	(女性)	52.5	6.0	21.9	1.6	14.1	3.9	100
栗東市		50.0	4.0	38.2	*	4.6	3.0	100
熊取町		55.7	3.0	33.4	*	4.0	4.6	100
伊万里市		51.3	4.9	28.3	*	8.8	5.8	100

( \* 数値が小さすぎるため引用書にも値が記入されていない )

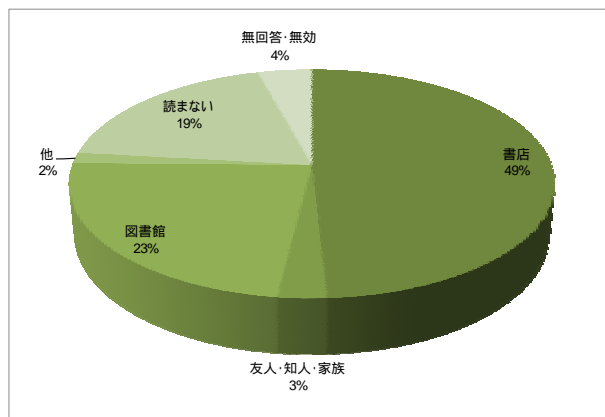


図 5 本の入手先 (%)

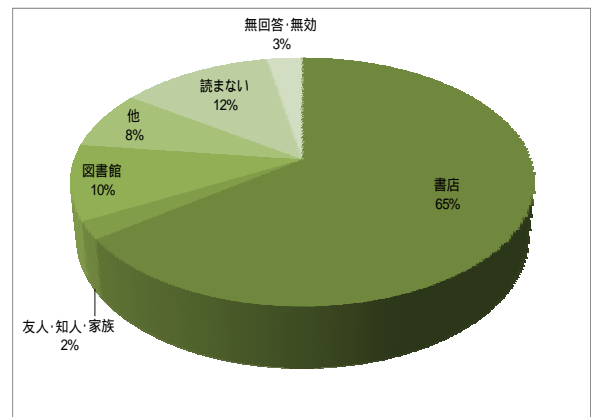


図 6 雑誌の入手先

表 10 は、回答者の居住する小学校区別にみた本の入手先である。田原中部・田原東部・童浦など、中央図書館に近い地域ほど「図書館で借りる・読む」が多くなっている。さらに、「図書館で借りる・読む」と答えた人の割合を示す図 7 をみると、赤羽根図書館や渥美図書館に近い地域でも「図書館で借りる・読む」が多くなっていることがわかる。

図 8 は、「本は読まない」と回答した人の多い地域である。中央図書館から離れるほど一般的に高くなる傾向にある。また中央図書館と赤羽根図書館の狭間や、赤羽根図書館と渥美図書館の狭間の地域でも高くなっている。田原市民の読書における図書館の重要性がわかる。

表 10 本の入手先（地域別）（%）

	書店など お店で買 う	友人知人 家族から 借りる	図書館で 借りる・ 読む	その他	本は読ま ない	無回答・ 無効	計
六連	48.4	3.8	20.4	1.6	22.6	3.2	100
神戸	50.5	2.5	21.1	1.0	20.8	4.1	100
大草	44.2	2.0	18.4	1.4	27.2	6.8	100
田原東部	45.7	3.6	26.4	1.2	18.3	4.8	100
田原南部	50.4	4.6	24.4	3.1	13.0	4.6	100
童浦	47.6	2.8	26.7	1.8	16.7	4.4	100
田原中部	44.4	2.5	32.7	1.6	15.0	3.8	100
野田	52.7	2.2	22.0	1.3	19.2	2.6	100
衣笠	50.0	2.4	24.7	1.8	16.4	4.7	100
高松	41.8	3.9	21.6	2.0	24.2	6.5	100
赤羽根	51.0	2.0	21.7	4.3	15.4	5.5	100
若戸	43.5	1.2	24.7	1.8	25.3	3.5	100
泉	57.3	2.5	17.0	1.1	17.5	4.7	100
清田	51.6	2.8	21.9	0.5	20.0	3.3	100
福江	47.1	3.0	23.8	0.7	22.0	3.4	100
中山	53.0	3.6	18.2	1.2	20.6	3.4	100
亀山	50.0	5.1	18.4	2.9	22.8	0.7	100
伊良湖	50.0	0.0	22.6	0.0	21.0	6.5	100
堀切	46.3	3.0	21.3	2.4	22.0	4.9	100
和地	61.3	0.0	17.0	0.9	14.2	6.6	100
豊橋市	59.5	2.7	18.9	0.0	18.9	0.0	100
無回答	53.8	7.7	0.0	0.0	15.4	23.1	100
計	49.2	2.8	23.3	1.5	19.0	4.2	100

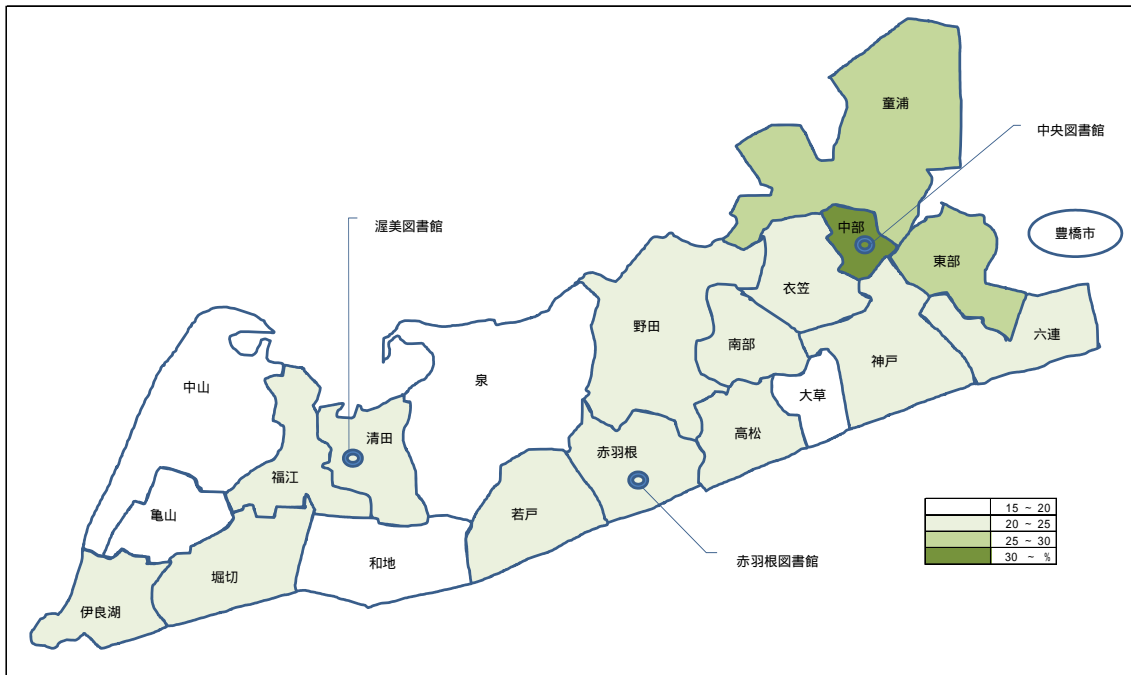


図 7 「本は、図書館で借りる・読む」と回答した人の多い地域

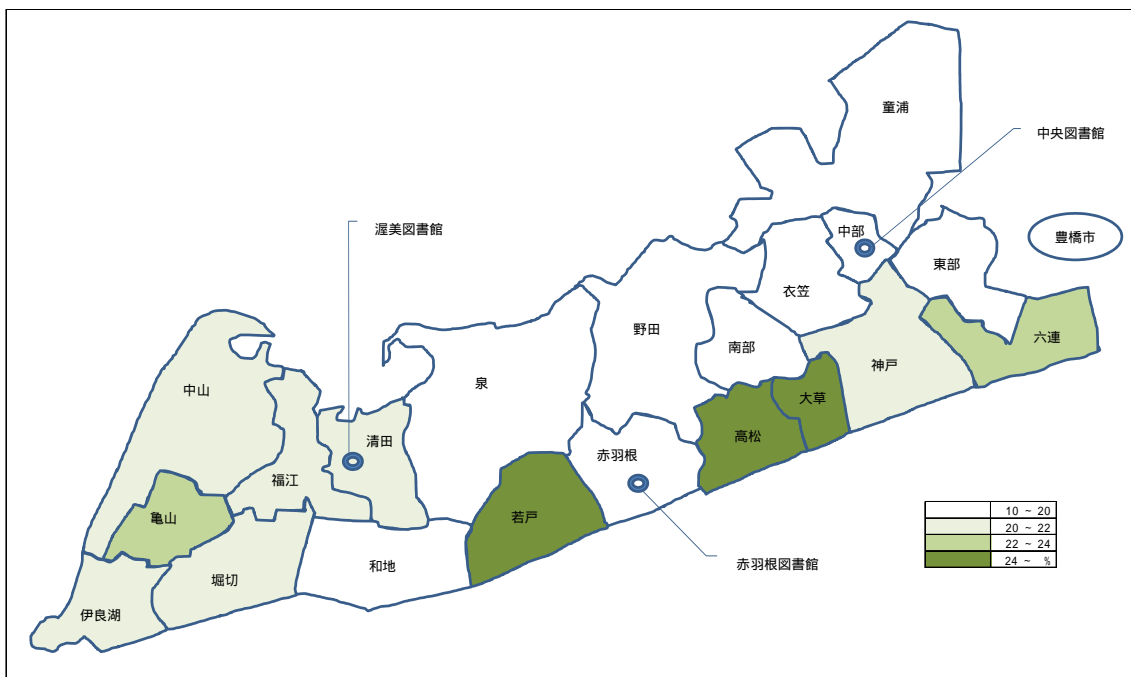


図 8 「本は読まない」と回答した人の多い地域

### 3. 雑誌の入手先

雑誌の入手先について尋ねた結果が表 11 である。「書店などお店で買う」が 64.9%と圧倒的に多く、「図書館で借りる・読む」は 9.8%と少ない。この差は、本の場合よりも開きが大きい。また「読まない」と回答した人は 12.5%であり、本の場合よりも少ない。本よりも雑誌の方が、価格的に書店で買いやすいことや、短時間で読めることなどが理由として推測できる。こうした傾向は名古屋市調査でもみられるが、田原市の方が「図書館で借りる・読む」の割合がやや多くなっている。なお、表には記していないが、「雑誌は読まない」回答した人の割合を先述した 3 市と比較すると、田原市が 12.5%であるのに対して、栗東市では 5.0%、熊取町では 5.9%、伊万里市では 7.5%と、3 市の方が少なくなっている。

表 11 雑誌の入手先 (%)

		書店など お店で買 う	友人知人 家族から 借りる	図書館で 借りる・ 読む	その他	雑誌は読 まない	無回答・ 無効	計
田原市	(全)	64.9	2.3	9.8	7.6	12.5	2.9	100
	(女性)	63.2	2.5	12.3	8.8	10.2	2.9	100
	(男性)	67.8	1.8	5.4	5.5	16.5	3.0	100
名古屋市	(女性)	68.4	1.9	7.0	9.5	11.0	2.1	100

雑誌の入手先を小学校区別に示したのが表 12 である。当然ながら、堀切・田原中部・田原東部・福江など、図書館に近い地域ほど「図書館で借りる・読む」が多くなっている。これを図示したのが図 9 である。

なお、「その他」が 7.6%であり、本の場合（1.5%）よりも多くなっているが、その実際の入手先について 405 件の記入をいただいた。その結果、入手先として記入の多かったのは、喫茶店・美容院・病院・立ち読みなどであった。

表 12 雑誌の入手先（地域別） (%)

	書店など お店で買 う	友人知人 家族から 借りる	図書館で 借りる・ 読む	その他	雑誌は読 まない	無回答・ 無効	計
六連	64.5	3.8	10.8	6.5	12.9	1.6	100
神戸	64.6	2.2	10.0	8.4	11.4	3.4	100
大草	61.2	4.8	7.5	6.1	15.0	5.4	100
田原東部	61.8	2.8	12.5	7.6	12.1	3.2	100
田原南部	64.1	2.3	7.6	11.5	13.7	0.8	100

童浦	64.8	1.9	10.8	8.9	11.8	1.8	100
田原中部	58.9	2.1	13.9	6.5	15.6	3.0	100
野田	65.5	2.2	7.3	9.3	13.1	2.6	100
衣笠	62.8	2.0	10.5	7.5	14.2	3.0	100
高松	60.8	1.3	9.2	9.2	13.1	6.5	100
赤羽根	71.1	1.6	5.5	8.7	12.3	0.8	100
若戸	58.8	0.6	10.6	9.4	19.4	1.2	100
泉	74.0	2.5	6.6	2.2	8.2	6.6	100
清田	69.3	1.9	6.5	7.9	11.2	3.3	100
福江	63.4	1.4	11.7	9.8	11.2	2.5	100
中山	69.8	3.6	7.4	4.8	12.2	2.2	100
亀山	70.6	4.4	6.6	4.4	13.2	0.7	100
伊良湖	77.4	0.0	4.8	8.1	6.5	3.2	100
堀切	64.6	1.8	15.2	6.7	8.5	3.0	100
和地	63.2	2.8	2.8	16.0	14.2	0.9	100
豊橋市	73.0	0.0	5.4	8.1	10.8	2.7	100
無回答	61.5	7.7	7.7	0.0	0.0	23.1	100
計	64.9	2.3	9.8	7.6	12.5	2.9	100

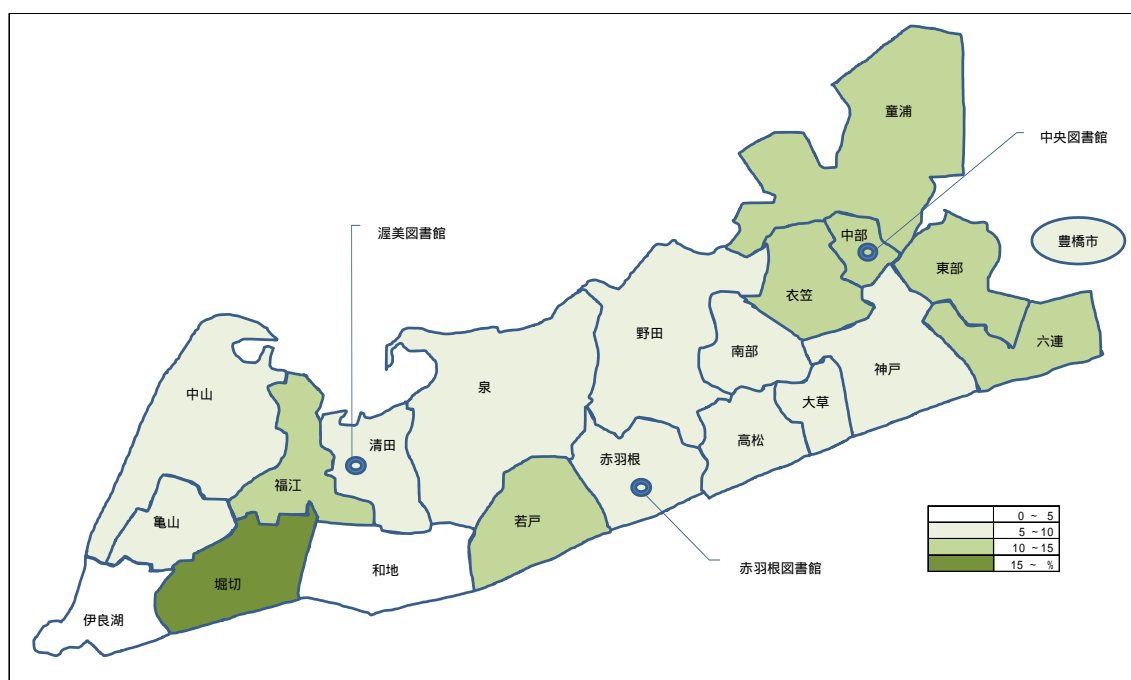


図 9 「雑誌は、図書館で借りる・読む」と回答した人の多い地域

#### 4．新聞の入手先

新聞の入手先については表 13 のとおりであった。「宅配あるいはお店で買う」が 76.6%と圧倒的に多い。名古屋市調査と比較すると、田原市では「図書館で読む」人の比率がやや高く、また「新聞は読まない」という人の比率が少なくなっている。

表 13 新聞の入手先 (%)

	宅配あるいはお店で買う	職場にあるものを読む	図書館で読む	その他	新聞は読まない	無回答・無効	計
田原市	76.6	6.4	1.0	3.8	10.1	2.2	100.0
名古屋市	76.0	5.4	0.4	5.2	12.0	1.0	100.0

#### 5．ビデオ・DVD・CDの入手先

ビデオ・DVD・CDの入手先については表 14 のとおりであった。「レンタル店で借りる」が 59.7%と最も多い。次いで「お店などで買う」16.4%、「ビデオは利用しない」11.2%の順となっている。名古屋市調査との比較では、田原市の方が「お店などで買う」が多く、「レンタル店で借りる」が少なくなっている。また「図書館で借りる」も田原市の方が多くなっている。

表 14 ビデオ・DVD・CDの入手先 (%)

	お店などで買う	友人知人家族から借りる	図書館で借りる	レンタル店で借りる	その他	ビデオは利用しない	無回答・無効	計
田原市	16.4	4.5	3.5	59.7	1.3	11.2	3.5	100
名古屋市	9.1	-	0.2	70.5	5.2	13.8	1.2	100

(名古屋市はビデオ・DVD のみの調査)

### 第3節 読書量はどのくらいか

#### 1. 本を読まない人

第2節において、田原市民のなかに「本は読まない」と回答した人が19.0% (表9)いて、「雑誌は読まない」と回答した人も12.5% (表11)いた。この値を、名古屋市調査および『読書世論調査2011』(毎日新聞社)と比較したのが表15である。なお、『読書世論調査2011』の場合は、「本」についてはマンガ本を含まない数値、「雑誌」についてはマンガ雑誌を含む数値になっている。

表15をみると、田原市の女性の場合は、名古屋市調査(女性)とほぼ似ていることがわかる。ただし男性は「本は読まない」「雑誌は読まない」ともや多くなっている。

『読書世論調査2011』によって全国の一般的な層と比較すると、田原市・名古屋市ともに、「本は読まない」「雑誌は読まない」という人の率が低い。ただし、『読書世論調査2011』質問形式は、読むか読まないかを聞いた後で、それに費やす時間を尋ねるという形式であり、田原市調査および名古屋市調査とは質問の仕方がやや異なる。

なお、先にも述べたように、栗東市・熊取町・伊万里市と比較すると、田原市調査・名古屋市調査ともに「本は読まない」「雑誌は読まない」の比率が高くなっていることには注意しておきたい。

表15 「読まない」と回答した人の割合 (%)

			本は読まない	雑誌は読まない
田原市	女性		15.6	10.2
	男性		24.9	16.5
	全体		19.0	12.5
名古屋市	女性		14.1	11.0
読書世論調査 2011	女性	20代	50	34
		30代	48	34
		40代	38	33
	男性	20代	42	36
		30代	52	37
		40代	45	32
	大都市		41	36
	中都市		44	37
	小都市		50	39
	町村部		50	37

(『読書世論調査2011』より 小都市：人口20万未満の市)



## ２．本を読む人の読書量

「本は読まない」と回答しなかった人(つまり本を読む人)に対して、この１か月で何冊読んだかを尋ねた結果が表 16 である。田原市民は、平均して１か月に単行本を 1.7 冊、文庫本・新書を 1.7 冊、週刊誌を 1.8 冊、月刊誌を 1.6 冊、マンガ本を 3.2 冊読んでいる。男女別に読書量を比較すると、女性では「文庫本・新書」の読書量が多く、男性では「週刊誌」の読書量が多い。

他都市との比較では、大きな特徴はみられないものの、田原市の男性の「文庫本・新書」の読書量がやや少なく、女性の「週刊誌」の読書量もやや少ない。ただし「週刊誌」の読書量が少ないのは、名古屋市調査の結果でもみられる。

表 16 読む人の１か月の読書量 (冊)

			単行本	文庫本・ 新書	週刊誌	月刊誌	マンガ本
田原市	女性		1.6	1.9	1.5	1.6	3.4
	男性		1.8	1.3	2.4	1.6	3.0
	全体		1.7	1.7	1.8	1.6	3.2
	(回答者数 人)		(1,878)	(2,295)	(2,719)	(3,861)	(1,858)
名古屋市	女性		1.8	1.7	1.2	1.6	2.8
読書世論調査 2011	女性	20 代	1.8	1.8	2.3	1.5	4.6
		30 代	2.7	1.9	2.6	1.6	3.7
		40 代	1.7	1.6	1.9	1.6	2.7
	男性	20 代	4.7	2.5	3.6	2.1	5.5
		30 代	1.9	1.6	4.0	1.6	2.7
		40 代	1.5	1.7	2.5	1.6	3.0
	大都市		2.3	1.9	2.8	1.6	4.2
	中都市		1.8	1.8	2.7	1.6	4.1
	小都市		2.4	1.8	2.5	1.6	3.9
	町村部		2.2	1.6	2.2	1.5	3.6

(『読書世論調査 2011』より)

図書館利用と読書量との関係については、７段階から選んでいただいた図書館利用回数をさまざまに数値化して読書量との相関係数を計算してみたが、はっきりした相関は両者の間にはみられなかった。また、表 17 および図 9～図 12 は、本を読む人の読書量を校区別に示したものであるが、泉・野田・若戸など市の地理的中央部の人の読書量が多い傾向にあるものの、図書館とかかわっての明確な特徴はみられない。こうしたことから、図書館

の利用回数と市民の読書量の関係はさほど強くないことがわかる。

本の入手先(表 9)として「おもに書店などお店で買う」が 49.2%で「図書館で借りる・読む」が 23.3%であったことや、雑誌の入手先(表 11)でも「おもに書店などお店で買う」が 64.9%で「図書館で借りる・読む」が 9.8%であったことを考えると、本を読む人の読書量全体に対する市立図書館の影響力は、まださほど大きくないものと思える。つまり本を読む人の多くは、書店での購入を中心としながら図書館も利用するという読書生活を送っているものと推測できる。

ただし、図書館を利用する人と全く利用しない人の読書量の差は、はっきりしている。表 18 および図 15 は、図書館を 1 年に 1 回も利用しなかった人(図書館非利用者)と、1 回以上は利用した人(図書館利用者)の読書量を比較したものである。週刊誌を除けば、図書館利用者の読書量の方が明らかに多い。このことから、図書館非利用者層が利用者層へと変化することが、市民の読書量の増加につながるものと思える。また、「本は読まない」と回答した人が、中央図書館から遠い地域や図書館の狭間の地域に多かったことから(図 8)、本を読む層を増やすために図書館は効果的であるといえる。

なお、図書館事業年報(平成 22 年)によれば、市立図書館は 1 年間に 13,376 人の市民(1 年に少なくとも 1 回は資料を借りた田原市民)に対して、本・雑誌・視聴覚資料など合わせて約 60 万冊の資料を貸し出している。一人当たりに換算すれば 1 か月に 3.7 冊(年間 44.9 冊)ということになる。一方、表 18 によると、今回の調査のうちの図書館利用者は、単行本・文庫本・新書・週刊誌・月刊誌・マンガ本を合わせると 1 か月に 10.8 冊(マンガ本を除けば 7.2 冊)の読書量がある。この 10.8 冊と 3.7 冊の差を埋めるための主要な手段が「書店などお店で買う」ということになる。

表 19 および 図 16 は、読書にかかわって家庭でどのようなことをしたかを尋ねた結果である。「子どもと一緒に図書館へ行った」46.6%、「子どもに本を買い与えた」40.9%、「絵本や読み物を、子どもに読んであげた」34.7%などが多くの家庭でなされている。また、これらの項目を行っている人の方が、そうでない人よりも読書量も多いことがわかる。

表 17 読む人の 1 か月の読書量(地域別) (冊)

	単行本	文庫本・新書	週刊誌	月刊誌	マンガ本
六連	1.7	1.5	1.5	1.6	2.8
神戸	1.5	1.4	1.7	1.4	2.5
大草	1.1	1.4	1.3	1.3	1.9
田原東部	1.4	1.4	1.6	1.5	2.8
田原南部	1.1	1.3	1.5	1.9	2.1
童浦	1.3	1.8	1.6	1.5	3.3
田原中部	1.4	2.2	1.7	1.7	3.1

野田	3.4	2.1	2.2	1.8	4.5
衣笠	1.4	1.7	1.7	1.6	2.8
高松	1.9	1.7	1.6	1.6	2.7
赤羽根	1.7	1.3	1.7	1.7	4.5
若戸	2.0	2.6	2.3	1.5	4.1
泉	2.7	2.5	2.5	1.5	6.5
清田	1.9	2.0	2.3	1.7	3.3
福江	2.1	1.5	1.9	1.5	3.4
中山	2.4	1.5	1.9	1.6	2.9
亀山	1.1	1.1	1.1	1.5	5.2
伊良湖	1.7	3.6	2.4	1.7	3.9
堀切	1.7	1.4	1.8	1.5	2.7
和地	1.5	1.5	1.5	1.4	2.2
豊橋市	1.0	1.7	0.9	1.2	2.1
無回答	0.0	0.0	1.0	2.3	1.0
計	1.7	1.7	1.8	1.6	3.2

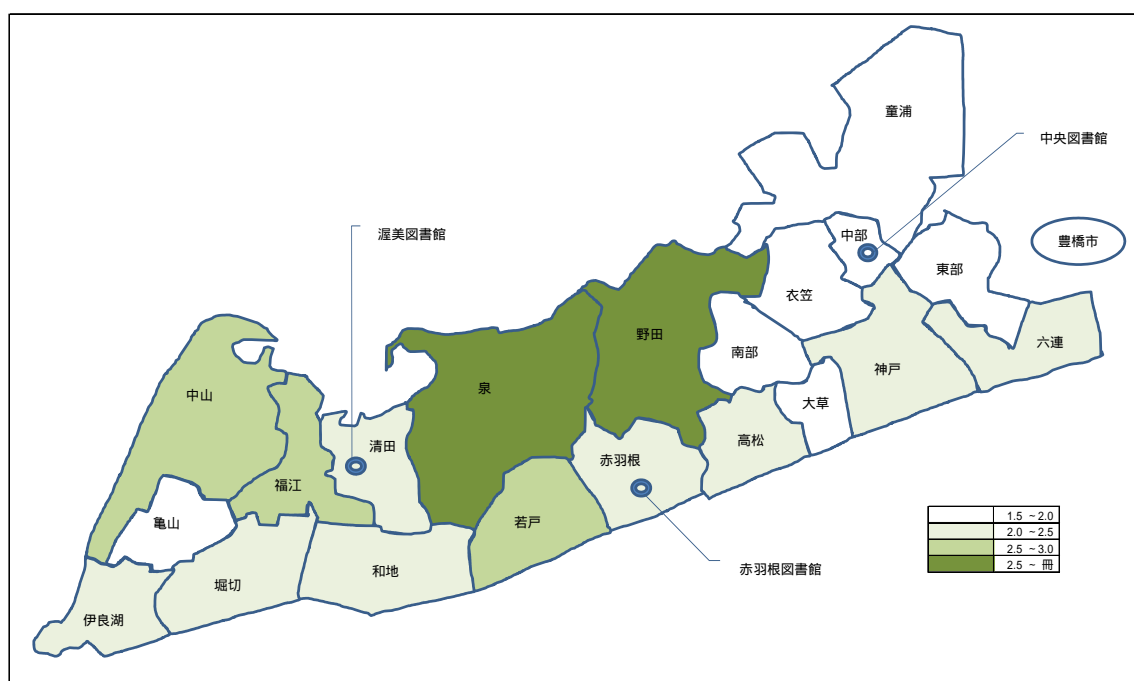


図 10 1 か月間の読書冊数 (単行本)

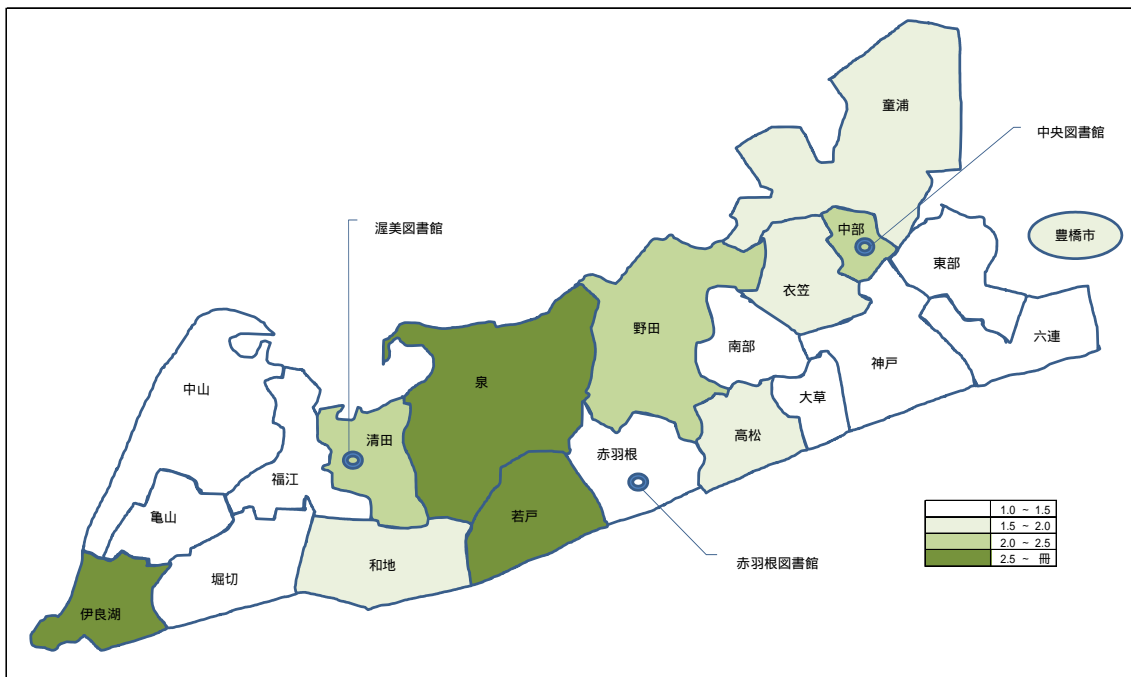


図 11 1 か月間の読書冊数 (文庫本・新書)



図 12 1 か月間の読書冊数 (週刊誌)



図 13 1 か月間の読書冊数 (月刊誌)



図 14 1 か月間の読書冊冊数 (マンガ本)

表 18 読む人の1か月の読書量 図書館利用者と非利用者の比較 (冊)

	単行本	文庫本・新書	週刊誌	月刊誌	マンガ本
図書館非利用者 (2,252 人)	1.3	1.1	2.0	1.3	2.5
図書館利用者 (4,004 人)	1.8	2.0	1.7	1.7	3.6
計	1.7	1.7	1.8	1.6	3.2

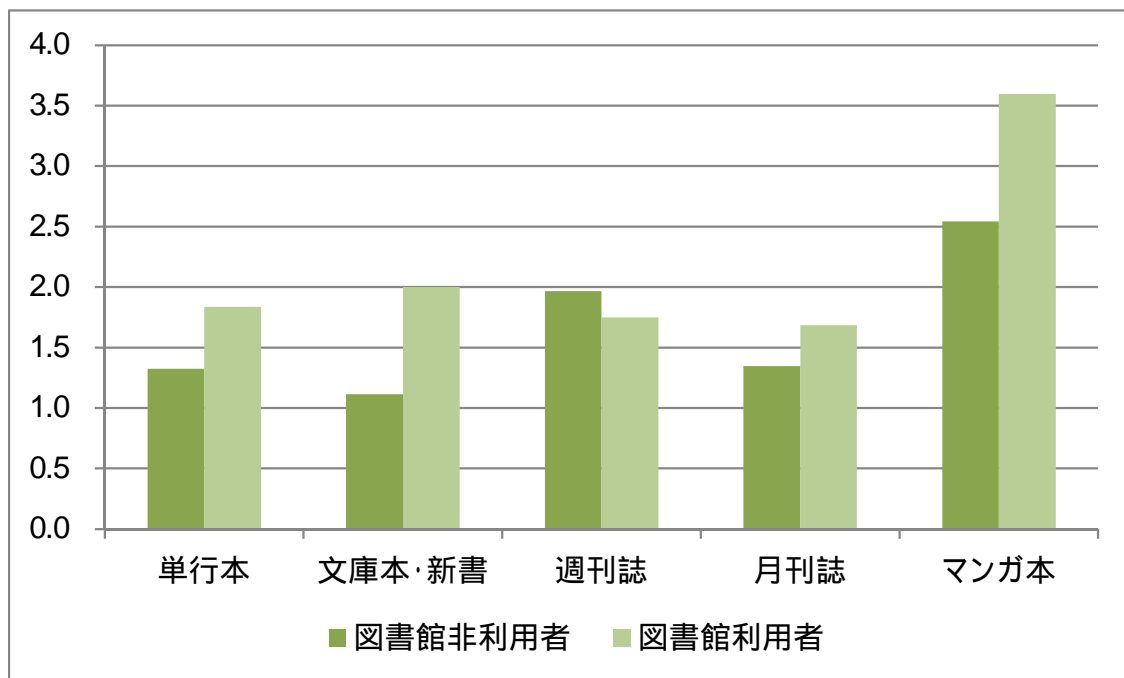


図 15 読む人の1か月の読書量 図書館利用者と非利用者の比較 (冊)

表 19 この1年間にあったこと(%) と1か月の読書量(冊)

	該当者 (%)	単行本	文庫 本・新書	週刊誌	月刊誌	マンガ 本
絵本や読み物を、子どもに読んであげた	34.7	1.8	1.9	1.7	1.6	3.6
自分が好きだった本を、子どもが読んだ	12.2	2.5	2.9	2.0	1.8	4.7
家族の持っている本を、子どもが読んだ	15.7	2.2	2.6	2.3	1.9	4.3
同じ時間に子どもと一緒に本を読んだ	20.4	2.2	2.4	2.2	1.9	4.0
本について子どもと会話をした	25.3	2.2	2.2	2.0	1.7	4.1
子どもに本を買い与えた (教科書・学習参考書以外)	40.9	1.8	2.0	1.9	1.7	3.6
子どもと一緒に図書館へ行った	46.6	1.9	2.0	1.8	1.7	3.6
その他	6.3	2.0	1.5	1.1	1.5	2.9

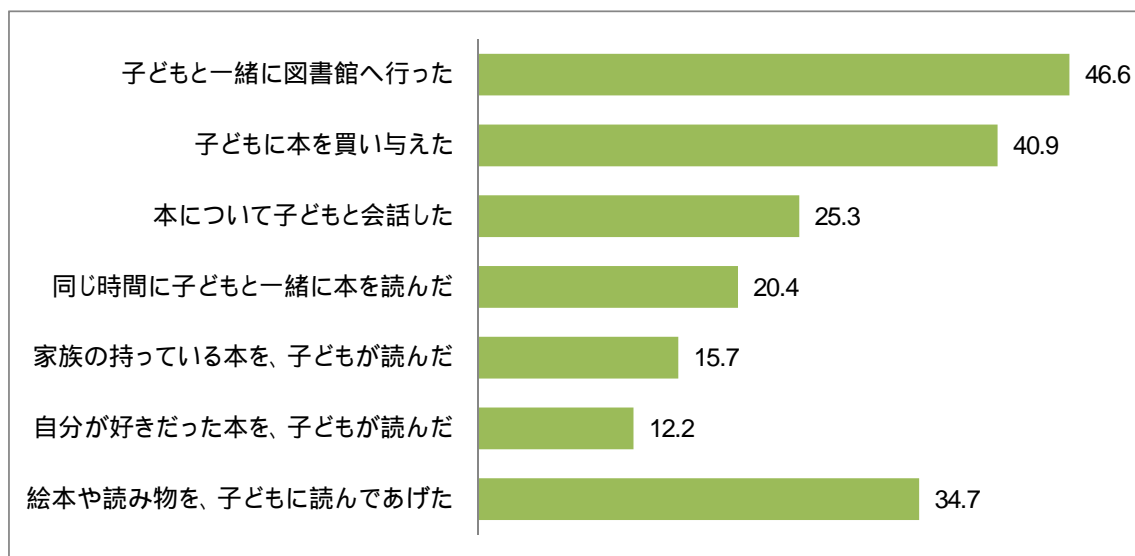


図 16 この1年間にあったこと(%)

## 第4節 図書館の利用はどれくらいか

### 1. 年間利用回数

図書館の年間利用回数は表20のとおりであった。利用回数0回(35.3%)と無回答(1.9%)を除いた62.8%の人が1年間に1度は図書館を利用したことになる。利用した人のなかでは1年間に1~4回という人の割合が最も多い。一方で、25回以上利用するという人もいる。25回以上利用する人の割合は女性で7.6%、男性で2.9%であり、女性の方が多い。全体で男女を比較してみても、女性の方が男性よりも図書館をよく利用していることがわかる。

地域別に利用回数を表したものが表23である。同表をもとに、図書館を10回以上利用した人の割合を地域別に図示したのが図17である。当然ではあるが、図書館に隣接する地域ほど、10回以上利用した人の割合が高い。

図18は逆に、利用回数0回の人を地域別に図示したものである。利用回数0回の方は市内全域にわたって存在しているものの、中央図書館の近辺では少なくなっている。図書館利用回数0回の方の割合を、表21や表22で他都市の状況と比較すると、田原市の数値が低くなっている。つまり、子育て中の田原市民は図書館をよく利用していることがわかる。

表20 図書館の年間利用回数(%) 田原市

	0回	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~	無回答	計
女性	25.7	31.4	15.9	11.0	3.7	3.1	7.6	1.6	100
男性	52.1	25.7	8.0	5.4	2.0	1.5	2.9	2.3	100
計	35.3	29.3	13.0	8.9	3.1	2.5	5.9	1.9	100

表21 図書館の年間利用回数(%) 名古屋市

	0回	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~	無回答	計
女性	45.0	22.1	10.5	7.8	4.3	4.1	5.4	1.0	100

表22 図書館の年間利用回数0回の方の割合(%) 全国

全体	女性	男性	20代	30代	40代	50代	大都市	中都市	小都市	町村部
68	65	72	75	65	65	70	69	68	69	68

(『読書世論調査2009』より)



表 23 図書館の利用回数 (回 / 1 年) 地域別

	0	1 ~ 4	5 ~ 9	10 ~ 14	15 ~ 19	20 ~ 24	25 ~	無回答	計
六連	44.6	30.6	10.8	7.0	2.7	0.5	3.8	0.0	100
神戸	37.1	28.0	14.0	8.4	2.2	1.7	6.8	1.7	100
大草	39.5	23.8	15.6	9.5	2.0	2.0	2.7	4.8	100
田原東部	29.0	31.8	10.3	8.9	3.8	3.6	9.3	3.2	100
田原南部	37.4	30.5	13.7	9.2	3.1	1.5	3.8	0.8	100
童浦	28.5	34.0	16.2	9.3	2.2	2.5	5.5	1.8	100
田原中部	29.9	27.0	11.8	12.8	4.4	4.1	8.1	1.9	100
野田	39.0	28.4	12.1	8.6	2.9	2.2	5.1	1.6	100
衣笠	31.4	26.5	16.2	10.7	3.8	4.0	5.1	2.2	100
高松	35.3	27.5	12.4	6.5	4.6	2.6	6.5	4.6	100
赤羽根	40.7	23.3	13.8	10.3	4.3	3.2	4.0	0.4	100
若戸	37.1	26.5	10.6	7.1	2.4	4.7	9.4	2.4	100
泉	38.9	31.5	11.8	7.7	2.5	2.5	3.6	1.6	100
清田	37.7	34.4	12.6	5.1	3.7	2.3	1.9	2.3	100
福江	35.5	28.1	13.0	10.5	3.0	2.1	6.9	0.9	100
中山	43.6	32.1	10.1	4.3	3.1	1.7	3.8	1.2	100
亀山	44.1	29.4	9.6	9.6	1.5	1.5	2.9	1.5	100
伊良湖	17.7	46.8	16.1	3.2	6.5	0.0	6.5	3.2	100
堀切	37.2	24.4	15.2	6.7	2.4	1.8	11.0	1.2	100
和地	41.5	24.5	13.2	12.3	1.9	0.0	5.7	0.9	100
豊橋市	35.1	32.4	10.8	18.9	2.7	0.0	0.0	0.0	100
無回答	38.5	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0	7.7	23.1	100
計	35.3	29.3	13.0	8.9	3.1	2.5	5.9	1.9	100

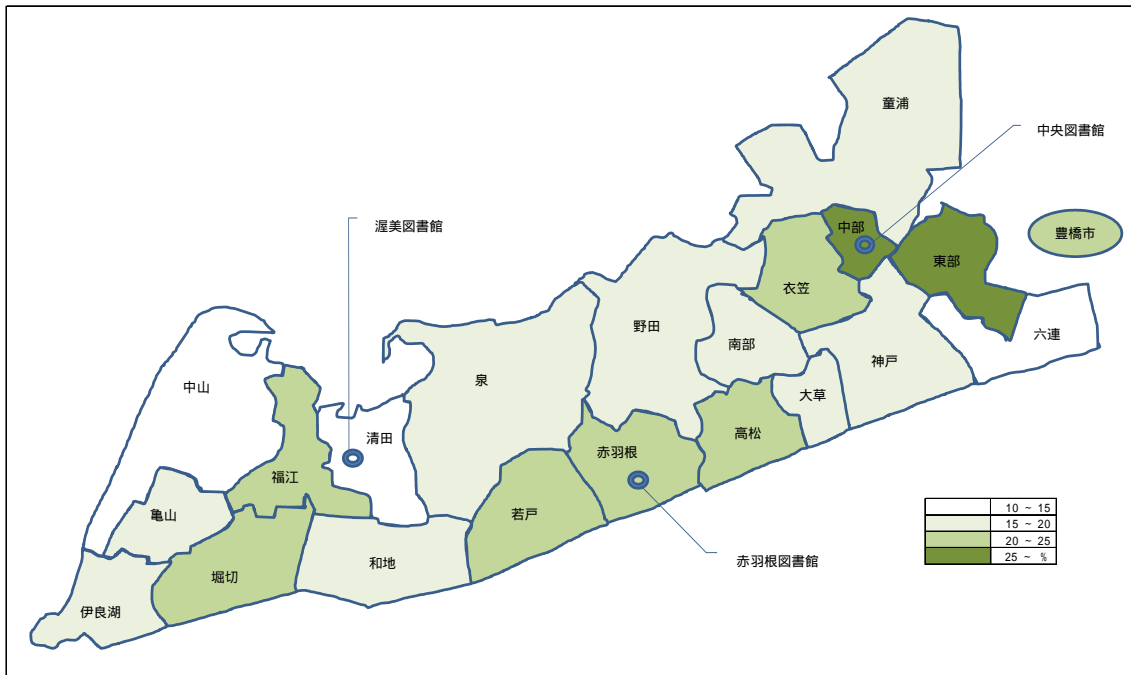


図 17 図書館を1年間に10回以上利用した人の割合 (%)

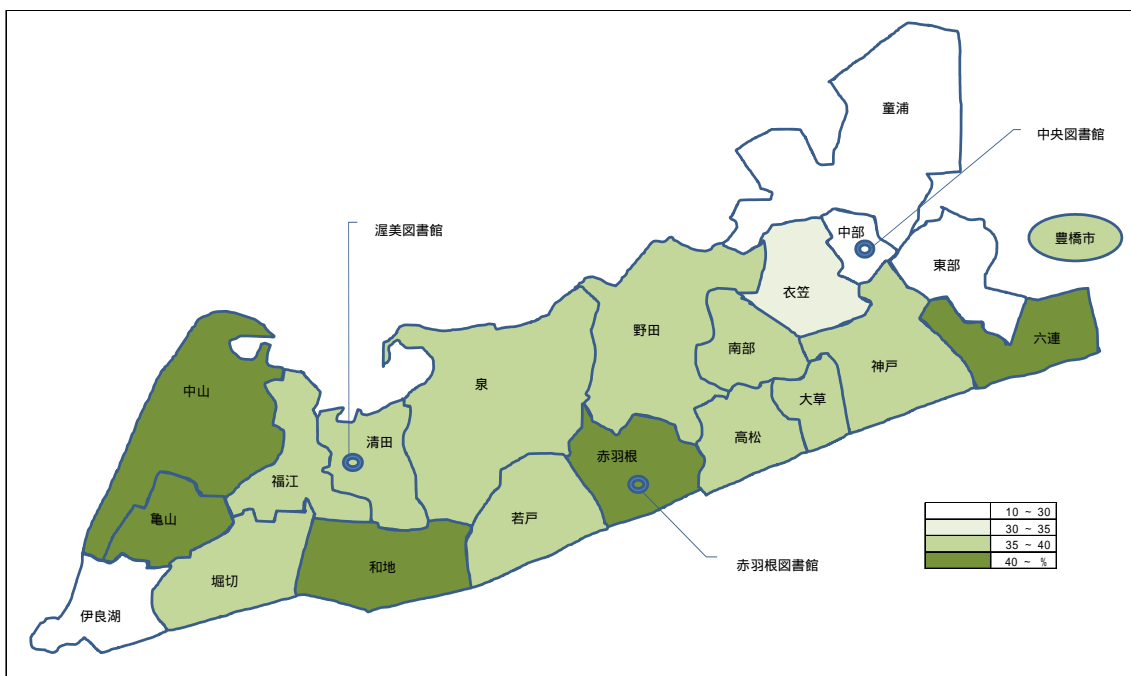


図 18 図書館の利用回数が0回の人割合(%)

## 2. おもに利用する図書館

図書館を1年間に少なくとも1度は利用したことのある人に対して、おもに利用している図書館の名前を尋ねた結果が表24である。質問の趣旨とは違って、1度も利用しなかった人からも回答があったため、4,370人(回答者総数6,375人のうちの68.5%)からの回答となった。おもに中央図書館を利用するという人が70.4%と最も多いが、渥美図書館を利用するという人も23.8%と比較的多い。おもに赤羽根図書館を利用するという人は5.1%と少ない。

図19から図21は、この状況を地域別に図示したものである。当然ながら、どの図書館の場合も、その図書館の近隣地域に住む人の利用率が高い。

表24 おもに利用する図書館 (%)

田原市 中央図書館	赤羽根 図書館	渥美図書館	豊橋市立 中央図書館	計
70.4	5.1	23.8	0.8	100

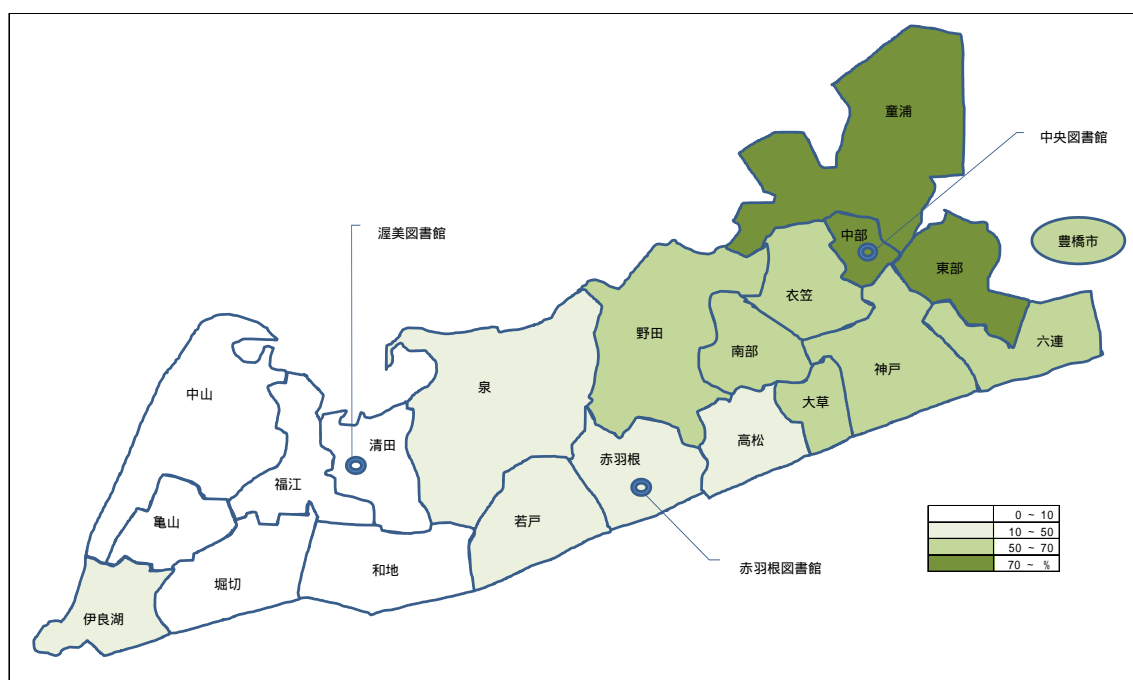


図19 おもに利用する図書館は「中央図書館」と答えた人の割合 (%)

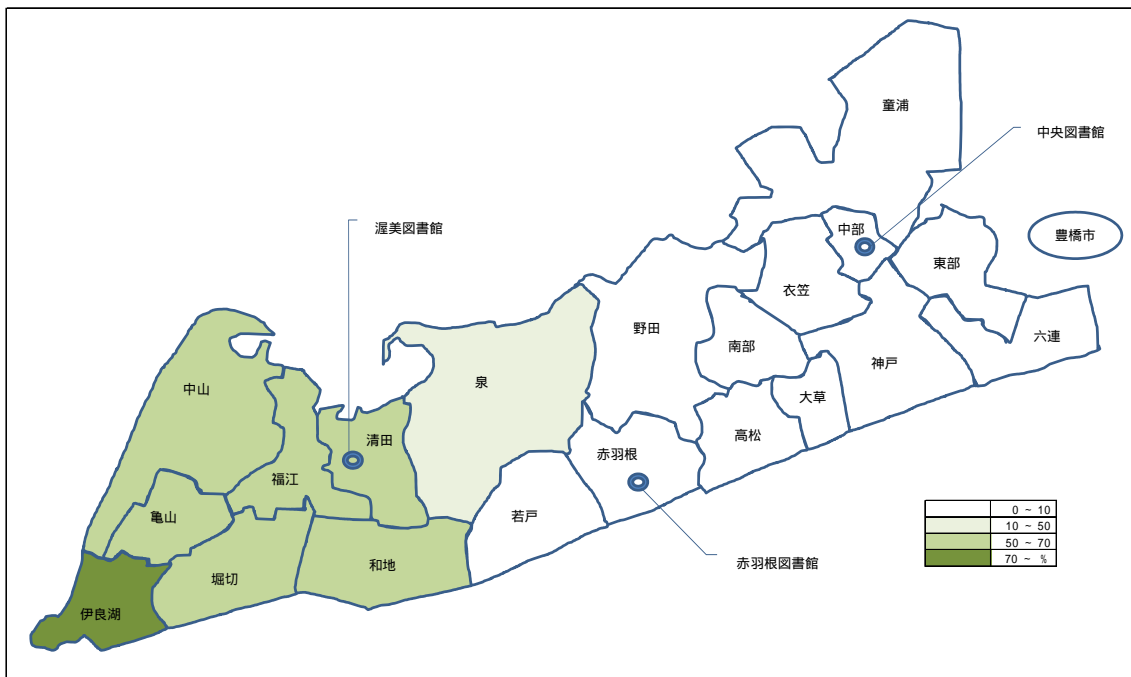


図 20 おもに利用する図書館は「渥美図書館」と答えた人の割合 (%)

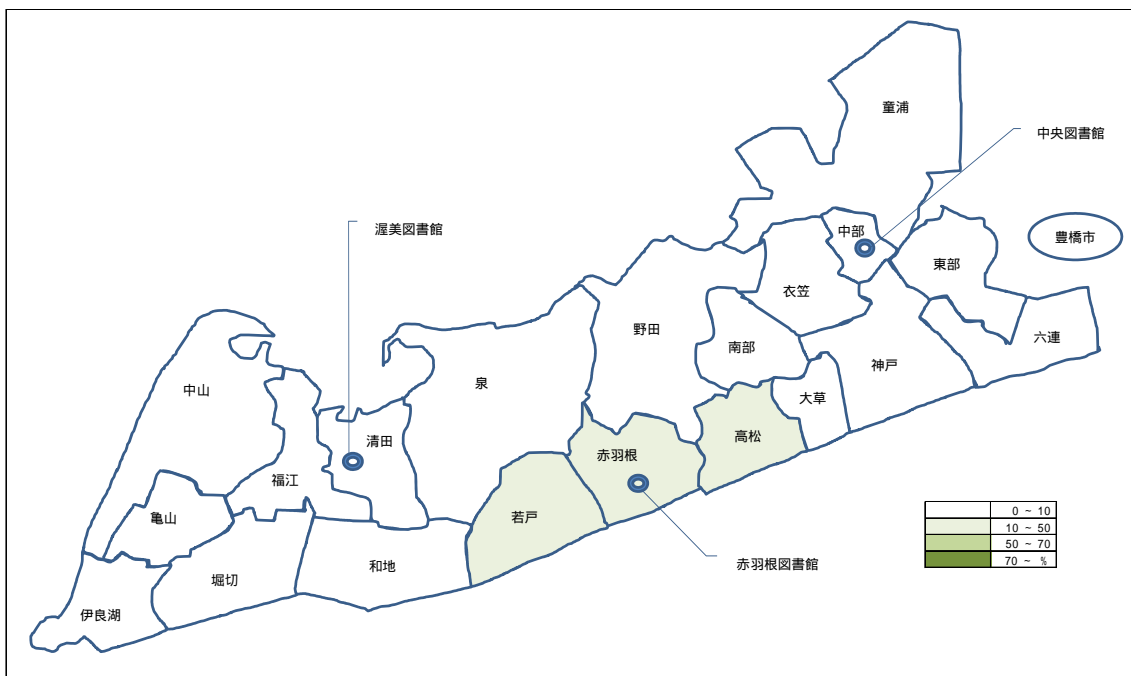


図 21 おもに利用する図書館は「赤羽根図書館」と答えた人の割合 (%)

### 3. 図書館を利用する理由

図書館を1年間に1度は利用したことのある人4,123人に対して、図書館を利用する理由を8つ項目から選ぶ形式で尋ねたところ、表25の結果となった。複数項目に をつけることが可能なので、延べ8,262個の が付けられていた。表の数値(%)は、この8,262に対する比率である。

表25をみると、「娯楽や趣味の情報を収集するため」(26.6%)が最も多く、「暇つぶしのため」(15.8%)、「日常生活に必要な知識や情報を得るため」(15.3%)の順になっている。「その他」(6.6%)と回答した人の理由として、555件の理由があげられていた。そのなかで、およそ270件と圧倒的に多かったのが、「子どもに絵本を選ぶため」「子どものために本を借りるため」「子どもと時間を過ごすため」「子につきそって」など、子どもにかかわる理由であった。

こうした傾向は、名古屋市調査(表25下段)と似ているが、田原市の特徴として「自宅に本の保管場所がない」という回答が少ない。『読書世論調査2009』(表26)で他地域と比較した場合は、田原市では「勉強や研究のため」と「自宅に本の保管場所がない」が少ないという特徴がみられる。

表25 図書館を利用する理由 (%)

	本を 買う経 済的余 裕がな い	自宅 に本の 保管場 所がな い	暇つ ぶしの ため	勉強 や研究 のため	娯楽 や趣味 の情 報を 収集	日常 生活に 必要な 知識情 報を得 る	仕事 のため の知識 情報を 得る	その他	計
田原市	10.7	5.5	15.8	10.4	26.6	15.3	9.2	6.6	100
名古屋市	9.7	12.1	11.2	10.4	21.3	13.3	7.8	14.2	100

表26 図書館を利用する理由 回答者数に対する比率(%)

	本を 買う経 済的余 裕が ない	自宅に 本の保 管場所 がない	暇つ ぶしの ため	勉強や 研究の ため	娯楽や 趣味の 情報を 収集	無回答	計
女性	14	12	11	27	46	3	113
男性	11	7	21	31	37	1	108
全体	13	10	15	29	42	2	111
大都市	14	14	13	33	38	2	114

中都市	9	11	15	31	43	1	110
小都市	15	7	17	25	45	3	112
町村部	12	8	17	27	44	4	112

(『読書世論調査 2009』より)

#### 4. 図書館を利用しない理由

図書館を1年間に1度も利用しなかった2,252人に対し、利用しない理由を6項目で尋ねた結果が表27である。複数回答が可能であったので、延べ2,974件の理由があげられている。「忙しくて利用する時間がない」(64.3%)が最も多く、「貸出や返却の手続きが面倒」(24.8%)が次に多い。この傾向は、名古屋調査と同じである。田原市の特徴としては、「図書館が近くにない」(9.7%)が非常に少ないことがあげられる。田原市の場合、図書館までの実際の距離は名古屋市よりも遠いと思われるが、市民は「図書館が近くにない」とはあまり感じていないようである。

図22は、この「図書館が近くにない」ことを理由としてあげた人の地域別分布図である。当然ながら、図書館から遠い地域ほど、「図書館が近くにない」ことを理由とする人の比率が高い。図23は、図書館利用が0回の人分布図(再掲)である。図書館を使わない人は、赤羽根図書館・渥美図書館などの図書館が近くにあって、一定数が存在している。しかしながら、中央図書館の近隣では少なくなっていることから、大規模な図書館であれば、利用0回の人を低くできることがわかる。

図書館を利用しない理由で、「その他の理由」として記入のあった217件をみると、「本は読まない」「本は買う」といった理由が多いなかで、「子どもが小さいから」「子どもが泣くから」「注意されるのがいや」など、子どもにかかわる理由が30件ほどあった。小さな子どもが図書館に迷惑をかけるのではないかと、気を遣っているようすがわかる。

表 27 図書館を利用しない理由(%) 複数回答

	図書館 が近くに ない	開館時 間が不便	読みた い本や雑 誌がない	貸出や 返却の手 続きが面 倒	忙しく て利用す る時間が ない	その他	計
田原市	9.7	7.6	13.7	24.8	64.3	12.1	132.1
名古屋市	29.3	7.3	6.9	31.0	72.4	12.9	159.9

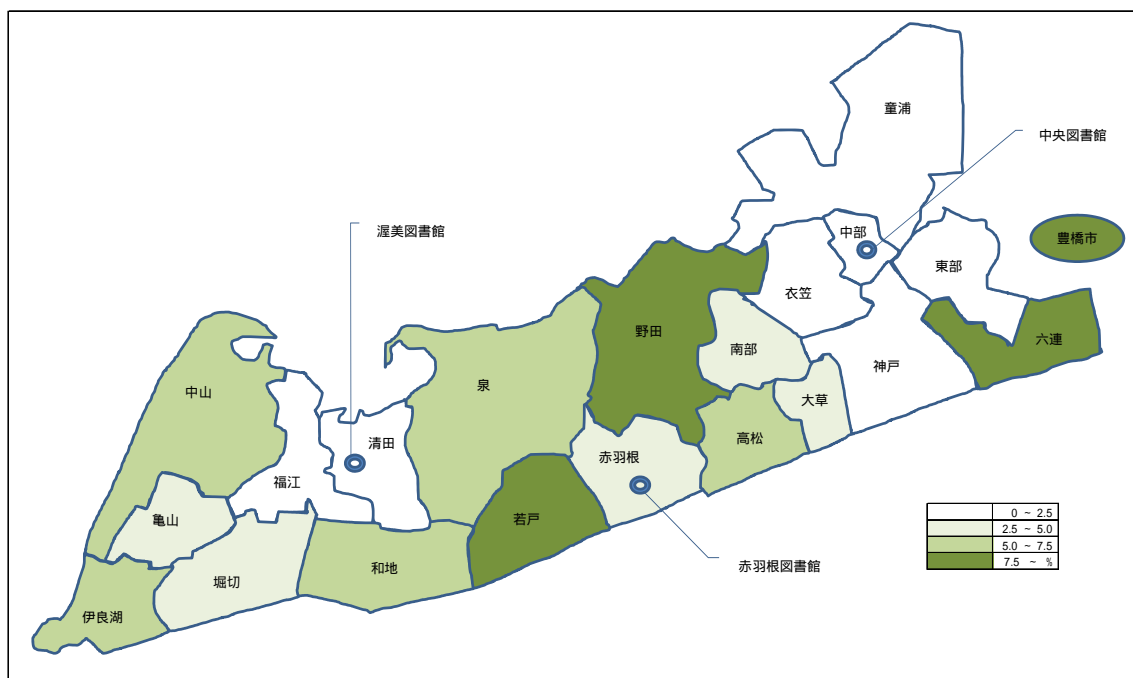


図 22 「図書館が近くにない」と回答した人の割合 (%)

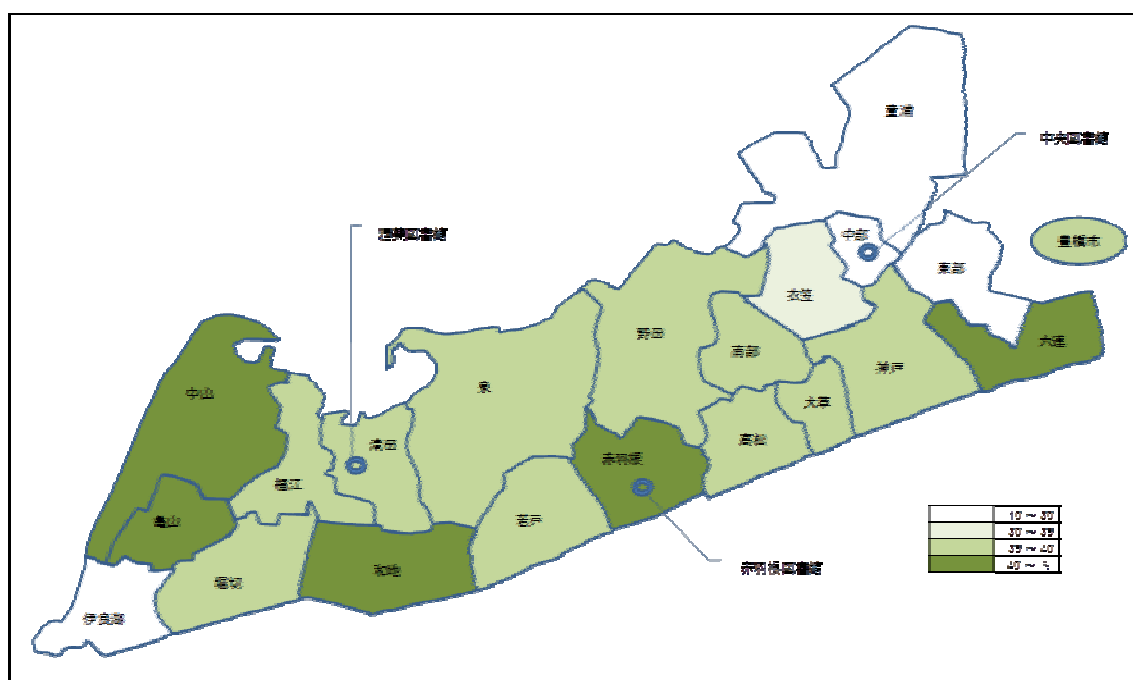


図 23 図書館の利用回数が 0 回の人の割合 (%) (再掲)

## ５．図書館サービスについて知っているか

田原市の図書館の実施しているサービスについて、それらを知っているかどうかを尋ねた結果が表 28 および図 24 である。「パソコンや携帯で本の予約ができる」「調べものの相談にのってくれる」「予約した本を、市内の最寄りの図書館で受け取れる」ことを知っている人が少ない。また、基本的なサービスであるにもかかわらず、「雑誌・本・ＣＤ・ＶＤを無料で借りられる」ことを知らない人が２割以上、「子ども向けの催しがある」ことを知らない人が４割程度もいる。広報の工夫が必要かと思われる。

表 28 図書館のサービスを知っている人の割合（％）

サービス	田原市	名古屋市
雑誌や本、ＣＤ・ＤＶＤなどが無料で借りられる	77.6	87.6
市内の他館の本が借りられる	40.5	48.6
貸出中の本や、所蔵していない本の予約ができる	50.1	55.2
パソコンや携帯電話で予約ができる	21.4	21.9
予約した本を、市内の最寄りの図書館で受け取れる	27.3	29.1
子ども向けの催しがある（おはなし会、手づくり教室など）	60.2	81.6
インターネットのできるパソコン、無線 LAN サービス	53.9	-
移動図書館で本が借りられる	67.8	-
調べものの相談にのってくれる	23.7	21.9

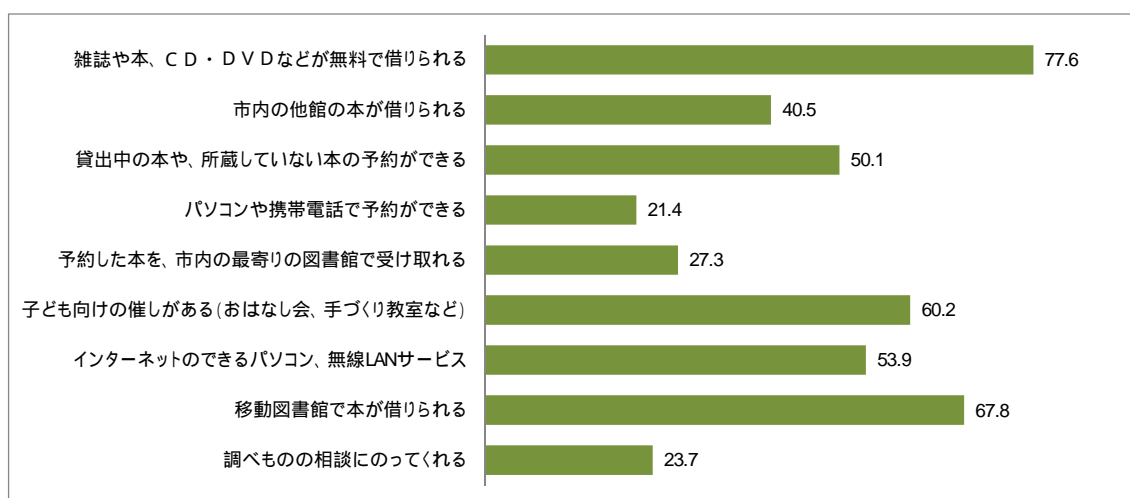


図 24 図書館のサービスを知っている人の割合（％）



## 6. 図書館に望むこと

図書館に望むことは何かについて尋ねた結果が表 29 および図 25 である。比率(%)は、アンケートの回答者全員(6,375人)に対する比率である。「人気のある本を増やす」(31.4%)、「子どもがさわいでも大丈夫なスペースをつくる」(28.2%)、「ビデオやCDを増やす」(21.1%)などの比率が高い。

「その他」の自由記入欄には704件もの意見が寄せられた。図書館への関心の高さがうかがえる。意見としては、返却ポストの増設、開館日・開館時間の増加、子ども向けの催し物やスペースなどについての意見が比較的多かった。また「今のままでよい」「現状で満足」という意見も多かった。

表 29 図書館に望むこと

望むこと	人	%
蔵書を増やす	741	11.6
雑誌を増やす	1,109	18.0
ビデオやCDを増やす	2,199	21.1
人気のある本を増やす	2,028	31.4
専門書を増やす	1,065	14.3
仕事に役立つ本を増やす	867	11.0
調べものに役立つ本を増やす	952	11.8
調べものの相談にのってくれる職員を増やす	321	5.2
子育て関係の本を増やす	467	18.0
子ども向けの読みものや絵本を増やす	720	11.3
子どもの本に詳しい職員を増やす	320	5.0
子ども向けの催し物を増やす	554	8.7
図書館員が保育園・幼稚園・学校で読み聞かせをする	1,197	18.8
たくさん本を保育園・幼稚園へ長期間貸出す	602	9.4
図書館で借りた本を保育園や幼稚園で返却できるようにする	1,148	18.0
駅前や保育園・幼稚園などに返却ポストをつくる	1,092	17.1
図書館で予約した本を保育園・幼稚園で受け取れる	412	6.5
予約した本を家まで配達する	701	11.0

スーパーなど便利な場所に図書館をつくる	618	9.7
子どもと飲食できるスペースをつくる	890	14.0
子どもがさわりでも大丈夫なスペースをつくる	1,798	28.2
その他	423	6.6

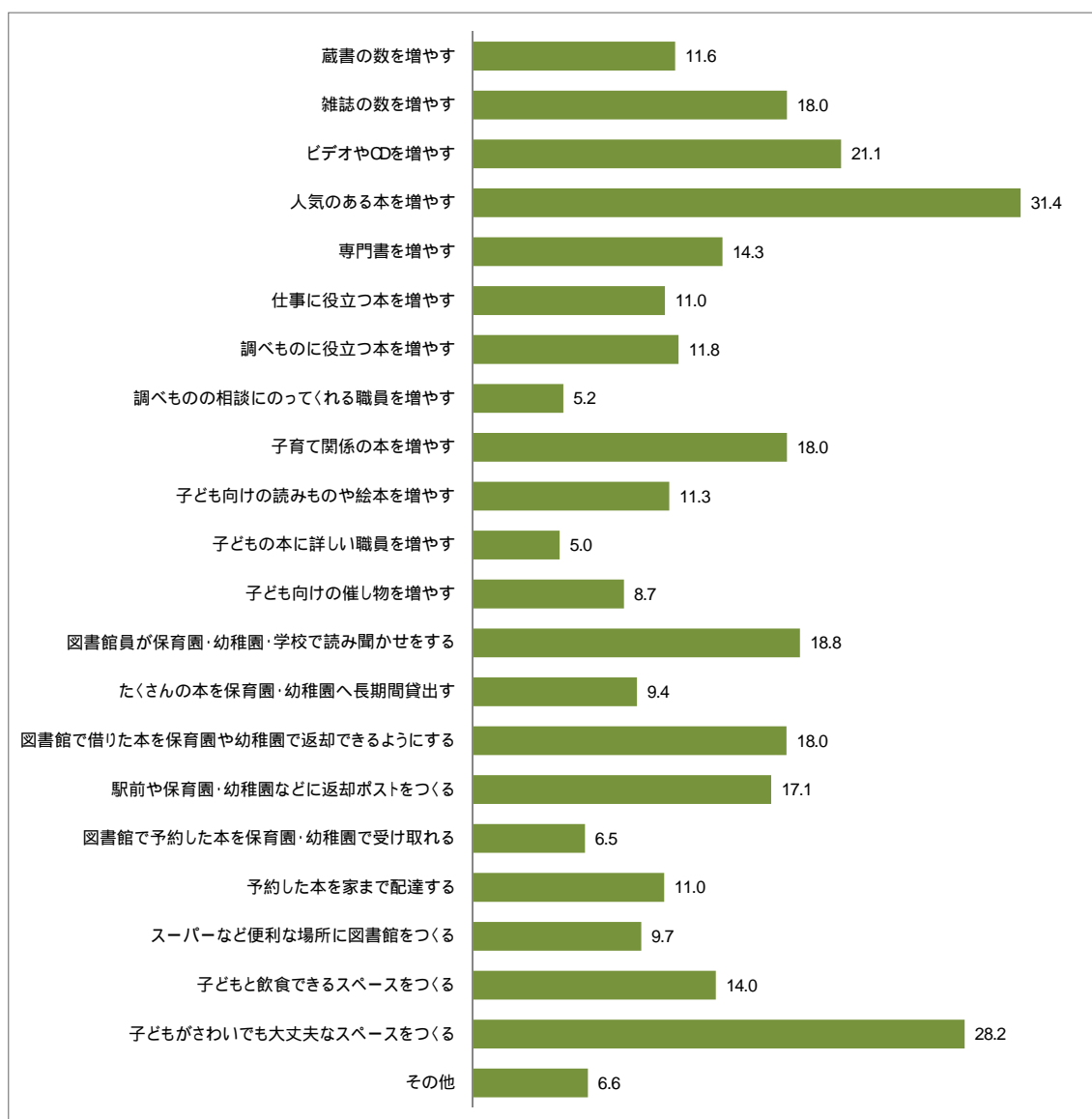


図 25 図書館に望むこと(%)

#### 第4章 調査結果のまとめ

本調査結果のまとめを下記枠内に簡潔に記入した。本報告書が、今後の田原市の読書推進計画の参考になれば幸いである。

生活の各場面における情報源としてはインターネットが重視されている。  
(ただし、本や雑誌など紙媒体の情報源にも一定の需要はある)  
本や雑誌の入手先としては、書店が最も多く、次いで図書館の順である。  
(本：書店から 49.2%、図書館から 23.3%、/ 雑誌：書店から 64.9%、図書館から 9.8%)  
本を読まない人が 19.0%いる。  
(男性に多い。図書館から離れた地域にも多い)  
図書館の利用をさらに増やすことで、本を読まない人の割合を下げることができる。  
(栗東市・熊取町・伊万里市のような実例がある)  
本を読む人の1か月の読書量(単行本)は 1.7 冊である。  
図書館を利用する人の読書量(単行本)は 1.8 冊であり、利用しない人の 1.3 冊より多い。  
(ただし、市民の読書量全体に対する図書館の影響力は、まだそれほど大きくはない)  
図書館はよく利用されている。特に女性の利用が多い。  
(1年に1回以上利用する人の割合は全体で 62.8%であり、女性では 72.7%である)  
図書館を利用する理由としては「娯楽や趣味の情報を収集するため」が最も多い。  
図書館を利用しない理由としては「忙しくて利用する時間がない」が最も多い。  
図書館へ要望としては「人気のある本を増やす」「子どもがさわいでも大丈夫なスペースをつくる」「ビデオやCDを増やす」などが多い。「今のままでよい」とする意見も多い。  
基本的なのに知られていない図書館サービスがある。広報の工夫が必要である。

最後になりましたが、アンケートにご協力いただいた田原市民のみなさま、保育園・幼稚園・小学校・中学校の関係者のみなさま、田原市教育委員会および田原市図書館のみなさまに感謝します。

## 子育て世代の読書と図書館利用についてのアンケート

田原市教育委員会・田原市図書館  
相山女学園大学文化情報学部

保護者のみなさまこんにちは。私ども田原市図書館と相山女学園大学では、現在子育て中のみなさまの読書や図書館利用についての実際を知り、図書館サービスや生涯学習行政の推進に役立てるために、下記のようなアンケート用紙を作成いたしました。お忙しいところ恐縮ですが、なにとぞご協力をお願いいたします。

アンケート用紙は、保育園・幼稚園・学校のご協力をいただいたうえで、みなさまにお配りしております。なお、できるだけ多くの方の実際を知りたいと思い、アンケート用紙は2枚お配りしています。可能であれば保護者の方お2人に回答いただけると幸いです。

お子さまが2人以上おいでのご家庭には、同じアンケートが園や学校から届くことがあります。回答いただくのは1回だけで結構ですので、2回目以降のアンケート用紙は、下記「回答済み」欄に印をつけて、そのままお返しください。なお、回答いただいた情報は、図書館サービスや生涯学習行政の推進に役立てたり、研究会などで発表したりする以外には使用いたしません。

1月31日(月)までに、保育園、幼稚園、学校に提出してください

連絡先：田原市中央図書館 (Tel0531-23-4946)

担当：辻 一生

相山女学園大学文化情報学部(司書課程教室)

担当：山本 昭和(准教授 Tel 052-781-5964)

回答済み

\*\*\*\*\* <アンケート用紙・保護者の方がご記入ください> \*\*\*\*\*

問1 あなたご自身についてお尋ねします。

(a)性別(どれか1つに )

女	男
---	---

(b)年齢(どれか1つに )

10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上
------	------	------	------	--------

(c)お子さまは何人ですか。(数字で記入)

(        )人
-------------

(d)お住まいはどの小学校区ですか(どれか1つに )

六連 童浦	神戸 田原中部	大草 野田	田原東部 衣笠	田原南部 高松	
11 赤羽根	12 若戸	13 泉	14 清田	15 福江	
16 中山	17 亀山	18 伊良湖	19 堀切	20 和地	21 豊橋市

問 2 あなたが次の(a)から(e)のことをするとき役に立つと思うものは、点線内の 1 から 12 のどれですか。最も役に立つと思うものから順に、1 から 12 の数字で記入してください。

	1 番目に 役に立つもの	2 番目に 役に立つもの	3 番目に 役に立つもの
(a)仕事のための情報や知識を得る			
(b)日常生活に必要な実用知識を得る			
(c)趣味娯楽や余暇の時間を過ごす			
(d)世の中の出来事を知る			
(e)子育てのための情報や知識を得る			

- |              |                |                |
|--------------|----------------|----------------|
| 1 新聞         | 2 雑誌           | 3 本            |
| 4 テレビ        | 5 ラジオ          | 6 CD・テープ       |
| 7 映画・ビデオ・DVD | 8 携帯電話         | 9 パソコン・インターネット |
| 10 友人・知人・家族  | 11 チラシやフリーペーパー | 12 その他         |

問 3 あなたは次の(a)から(e)のものを、おもにどのような方法で入手あるいは利用しますか。どれか 1 つに をつけてください。

(a) 新聞 (どれか 1 つに )

- |                        |              |
|------------------------|--------------|
| 1 宅配あるいはお店で買う(ネット店を含む) | 2 職場にあるものを読む |
| 3 図書館で読む               | 4 その他( )     |
| 5 新聞は読まない              |              |

(b) 雑誌 (どれか 1 つに )

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| 1 書店などお店で買う(ネット書店を含む) | 2 友人・知人・家族などから借りる |
| 3 図書館で読む・借りる          | 4 その他( )          |
| 5 雑誌は読まない             |                   |

1～4 に をつけた方にお尋ねします。この 1 か月間に雑誌を何冊読みましたか

月刊誌( 冊) 週刊誌( 冊)

さしつかえなければ、読んだ雑誌の名前をお教えてください。

( )

(c) 本 (どれか 1 つに )

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| 1 書店などお店で買う(ネット書店を含む) | 2 友人・知人・家族などから借りる |
| 3 図書館で読む・借りる          | 4 その他( )          |
| 5 本は読まない              |                   |

1～4 に をつけた方にお尋ねします。この 1 か月間に本を何冊読みましたか

単行本( 冊) 文庫本・新書( 冊) マンガ本( 冊)

さしつかえなければ、読んだ本の名前をお教えてください。

( )

(d) ビデオ・DVD・CD (どれか 1 つに )

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1 お店などで買う(ネット店を含む) | 2 友人・知人・家族などから借りる |
| 3 図書館で借りる          | 4 ビデオレンタル店で借りる    |
| 5 その他( )           | 6 ビデオは利用しない       |

(e) インターネット（どれか 1 つに ）

1 自宅	2 職場・学校
3 図書館	4 携帯電話(i モードなど)
5 その他( )	6 インターネットは利用しない

問 4 あなたはこの 1 年間に、地域の図書館をどのくらい利用しましたか。どれか 1 つに をつけてください。

0 回	1 ～ 4 回	5 ～ 9 回	10 ～ 14 回
15 ～ 19 回	20 ～ 24 回	25 回以上	

(a) に をつけた方にお尋ねします。図書館を利用しない理由は何でしょうか。

(あてはまるものに、いくつでも をつけてください)

1 図書館が近くにないから	2 開館時間が不便だから
3 読みたい本や雑誌がないから	4 貸出や返却の手続きが面倒だから
5 忙しくて利用する時間がないから	
6 その他( )	

(b-1) ～ に をつけた方にお尋ねします。おもに利用する図書館はどこでしょうか。

1 田原市中央図書館	2 赤羽根図書館	3 渥美図書館
4 豊橋市中央図書館	5 その他( )	

(b-2) ～ に をつけた方にお尋ねします。図書館を利用する理由は何でしょうか。

(あてはまるものに、いくつでも をつけてください)

1 本を買う経済的余裕がないから	2 自宅に本の保管場所がないから
3 暇つぶしのため	4 勉強や研究のため
5 娯楽や趣味の情報を収集するため	
6 日常生活に必要な知識や情報を得るため	
7 仕事のための知識や情報を得るため	
8 その他( )	

問 5 ご家庭や図書館での読書について、この 1 年間にどんなことがありましたか。(あてはまるものに、いくつでも をつけてください。)

1 絵本や読み物などを、子どもに読んであげた。
2 自分が好きだった本を、子どもが読んだ。
3 家族の持っている本を、子どもが読んだ。
4 同じ時間に子どもと一緒に本を読んだ。
5 本について子どもと会話をした。
6 子どもに本を買い与えた。(教科書や学習参考書以外の本)
7 子どもと一緒に図書館へ行った。
8 その他 ( )

問 6 田原市図書館の次のようなサービスをご存知ですか。ご存知のものに をつけてください。

- 1 雑誌や本のほか、ＣＤ・ＤＶＤなどが無料で借りられる
- 2 市内の他館の本が借りられる
- 3 貸出中の本や、所蔵していない本の予約ができる
- 4 パソコンや携帯電話で予約ができる
- 5 予約した本を、市内の最寄りの図書館で受け取れる
- 6 子ども向けの催しがある。(おはなし会や、手作り教室など)
- 7 インターネットのできるパソコンや、無線ＬＡＮサービスがある
- 8 移動図書館で本が借りられる
- 9 調べものの相談にのってくれる

問 7 田原市図書館に望むことは何ですか。望むものに、いくつでも をつけてください。

- |   |                        |
|---|------------------------|
| 1 蔵書を増やす                                  | 2 雑誌を増やす               |
| 3 ビデオやＣＤを増やす                              | 4 人気のある本を増やす           |
| 5 専門書を増やす                                 | 6 仕事に役立つ本を増やす          |
| 7 調べものに役立つ本を増やす                           | 8 調べものの相談にのってくれる職員を増やす |
| 9 子育て関係の本を増やす                             | 10 子ども向けの読み物や絵本などを増やす  |
| 11 子どもの本に詳しい職員を増やす                        | 12 子ども向けの催し物を増やす       |
| 13 図書館職員が保育園・幼稚園・学校へ行って、子どもの本の紹介や読み聞かせをする |                        |
| 14 たくさんの本を保育園・幼稚園へ長期間貸し出す                 |                        |
| 15 図書館で借りた本を保育園や幼稚園で返却できるようにする            |                        |
| 16 駅前や保育園・幼稚園などに返却ポストをつくる                 |                        |
| 17 図書館で予約した本を保育園・幼稚園で受け取れるようにする           |                        |
| 18 予約した本を家まで配達する                          |                        |
| 19 スーパーなど便利な場所に図書館をつくる                    |                        |
| 20 子どもと飲食できるスペースをつくる                      |                        |
| 21 子どもがさわいでも大丈夫なスペースをつくる                  |                        |
| 22 その他、何でもご自由にお書きください。<br>( )             |                        |

【ありがとうございました。】

田原市民の読書と図書館への期待 - 子育て世代へのアンケート調査から -

平成 24 年 3 月 31 日 発行

相山女学園大学文化情報学部司書課程研究室  
山本昭和 / 福永智子

〒464-8662 名古屋市千種区星が丘元町 17 番 3 号  
052-781-5964 (山本) / 052-781-5943 (福永)  
a-yamamoto@sugiyama-u.ac.jp / fukunaga@sugiyama-u.ac.jp